

医療最前線

8050問題と
重層的支援体制整備事業

二賢山下 介護支援専門員
「8050問題」を抱えている世代は、80代と50代に限定されるものではなく、さまざまな年代が対象となる。また、障がい者分野では、8050問題が注目される以前から、

■8050問題とは

「8050問題」、近年テレビなどでも見た世帯は、さまざまな問題から外部へ相談し、葉ではないでしょうか。今回はこの「8050問題」について説明していきます。

この言葉に厳密な定義はないのですが、「50代のひきこもり状態の子どもと、それを支える80代の親の高齢化問題」というところから「8050問題」と

8050問題のその後につながる「親亡き後問題」が深刻な課題として存在しています。これは、高齢の親が亡くなった後、さまざまな理由でひきこもり状態にある子どもが、経済的にも社会的にも孤立してしまい、生活が困難な状況に陥ることを指します。

■8050問題の背景

8050問題には、家族形態の変化が大きく影響しています。

現在、核家族化からさらに進んで、単世帯や夫婦のみの世帯が増えています。令和5年の国民生活基礎調査によりますと、単世帯が34%、夫婦のみの世帯が約25%、夫婦と未婚の子のみの世帯も約25%となっており、かつてのような大家族は少数派です。

もしも家族の1名がひきこもり状態にあっても、それが大家族の中でのひきこもりの場合は、家庭内におけるさまざまな関係性によって家族全体としては社会的に孤立した状態になりにくいといえます。

しかし、単身化

が進んでいる現在では、地域との関わりが希薄になり、特に親子1人の同居世帯では家族全体としても社会的に孤立した状態になりやすく、外部の相談機関とのつながりも非常に持ちにくいと考えられます。

■ケアマネジャーとしての対応

私は広島市で介護支援専門員（ケアマネジャー）として働いています。介護支援専門員は高齢者介護の専門職種なのですが、ここ数年、8050問題のようないくつかのケースを担当することが増えています。そして、「8050問題」は、50代のひきこもり状態の子どもと、それを支える80代の親の「高齢化問題」と先書きました。実際には高齢化の問題だけではなく、高齢者、障害者、経済困難などのさまざまな問題が複雑に絡み合っていることが多いです。

このような場合、広島市の各区に配置されているさまざまな窓口で相談し、その協力のもと伴走支援を行っています。例えば、高齢者の総合相談窓口として地域包括支援センターがあり、これは各区の各中学校区におおむね一つずつ設置されて

います。介護保険の関係であれば、各区役所に福祉課・高齢介護係があります。また、障害のある方についての相談窓口としては、障害者基幹相談支援センター、障害者相談支援センター、地域生活支援拠点などが設置されています。

ここまでお話しして疑問に思われるかもしれません。「相談の種類によっていろいろな窓口がある」と聞いたが、8050問題はさまざまな問題が複雑に絡み合っているとする、問題の数だけいろいろな相談窓口を回されて、結局たらい回しになるだけではないのか？」

確かに相談窓口の問題ごとに回っていくのは大変です。

■重層的支援体制整備事業

このようにさまざまな問題が山積した現状に対し、社会福祉法の改正により、重層的支援体制整備事業が創設されました。非常に簡単に言いますと、従来の福祉制度では対応しきれない複雑・多様な生活課題に対応することを目的とした事業であり、まさに8050問題のような社会的課題に対応する制度であるといえます。

厚生労働省は、この

制度を設計するにあたって大事にしたことを、①すべての人びとのための仕組みとすること、②実践において創意工夫が生まれやすい環境を整えること、③これまで培ってきた専門性や政策資源を活かすこと、としており、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施することを必須にしています。

広島市は、令和6年4月よりこの重層的支援体制整備事業を開始しました。新しい体制は、旧来のように複雑化した問題を別々の相談窓口で対応するのではなくありません。既存の相談窓口が複雑・複合化した課題を受け取った後、新たに設置された相談支援包括化推進員が分野を超えた支援の調整を行い、多機関で連携する形となります。

この事業が始まったことにより、相談したくてもどこに行けばよいかわからないという方も、以前よりずっと相談しやすくなりました。ぜひお近くの相談窓口にお立ち寄りください。もしも窓口に行くのはハードルが高いと思われるようでしたら、ケアマネジャーなどにご相談ください。たとえば、今すぐ問題が解決できないとしても、何らかのつながりを持ち続けることはとても重要です。

（梶川病院（広島市西区天満町）介護支援専門員 山下賢二）



ひきこもり状態の中高年の子どもと、それを支える親が高齢化している8050問題。単身世帯の増加で将来子どもが社会的に孤立してしまう恐れがある